

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270100702		
法人名	有限会社 山葉福祉		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	千葉県千葉市中央区南町2-11-5		
自己評価作成日	平成25年1月22日	評価結果市町村受理日	平成25年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成25年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最寄駅から徒歩3分という交通の便の良さと、ホテルを改修した広々とした共用空間で、家庭的な雰囲気の中、ゆったり楽しく一緒にを合言葉に、その人らしい生活を送れるようにケアしている。また終末期のあり方として、ターミナルケアを実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の高齢化が進み、車椅子利用の方も増えてきているが、整った環境の中で「ゆったり楽しく」、基本方針に沿った落ち着いた日々を過ごされている。医療連携と健康管理を充実させ、早くから終末期や看取りまでの対応を謳いその経験を積んできていることは、利用者や家族の大きな安心感に繋がっている。今回実施した利用者アンケート結果は、全項目で満足度が高かった。医療面やホームの清潔感、雰囲気に対する評価が多数寄せられていたが、なかでも職員を賞賛する声が高く、優しさ、明るさ、信頼感、ケアの工夫、そして家族に対する気遣いまでも高く評価されており、職員によるケアのクオリティーの高さを改めて認識することとなった。施設長は職員の自発的行動を促し、運営への参画意識を持ってサービスの質の向上に挑戦するよう導いている。この運営姿勢を高く評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、その人らしく暮らし続けられるよう、認知症の特徴をふまえた環境作りとケアを提供し、その理念を施設内研修や会議等で確認し、実践につなげている	利用者一人ひとりに合わせた手伝いを基本方針としている。ケース会議で、個々の利用者をどう云う風に手伝うかを話し合い、理念に沿ったケアが提供できているかを振り返って、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、できるだけ日常的なつきあいができるよう心掛けるとともに、夏祭りや敬老会の行事等に積極的に参加している。地域のボランティアを受け入れ、交流をはかっている。	大震災時の近隣の多大な助力に感謝するとともに、町内会や地域との交流に取り組んでいる。ボランティアからの働きかけは多彩で、フラダンス、折り紙、唱歌、日舞等は利用者の日々の楽しみと活力源になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の人達に介護教室等への参加を呼び掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の報告や、会議の中で出た意見や要望等をサービスの向上にいかしている。	会議は年4回開催されている。参加者は複数の民生委員、介護相談員、町内会長、家族代表で構成され、外部評価の報告や、介護相談員からの談話、介護計画についての説明等があり、意見や提案はサービスの向上に活かされている。	毎回テーマに沿った討議が行われ、会議の重要度が増してきている。年6回の開催を計画すると共に、目標達成計画についてのモニタリングの役目を担って頂く会議となる様期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談会や研修、話し合い等に積極的に参加し、協力関係を築きたいと考えている	千葉県高齢施設課とは、書類提出の際、管理者が自ら出向いて担当職員との面談を心掛けるなど、連絡が密となる様取り組んでいる。介護相談員の来所や、身体拘束排除の研修受講など協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に積極的に参加し、その内容を会議等で話し合い、すべての職員で学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除の理念及び方針」を掲げ、身体拘束ゼロのケアを実践している。ケース会議で身体拘束をせずに、どうケアするかを個別事例で話し合い、身体拘束についての認識と排除に対する意識を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は研修に参加したり、会議で話し合うなどして、虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に出来るだけ参加するよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に体験入居を行っており、相互に十分に検討する時間と作っている。解約又は改定等の際は、家族等の話し合いや説明で十分な理解を得るよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会を通じて、家族の意見や要望を聞き、運営やケアに反映させるよう努めている	利用者や家族の要望は、面会来訪時に施設長や管理者が利用者の現状報告と共に、課題点を聴き取りケアに反映させている。年2回、家族会を兼ねてバーベキュー会を屋上で開催し、家族同士やボランティアの方々との交流を図る中で、意見や要望を広く汲み取れる好機としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の全体会議を行い、職員の意見や提案を聞いている	職員からの意見や提案は、管理者が随時聞き取り、話し合って実行に移している。ちょっとした気付きでも小さなカンファレンスと称した話し合う機会を持ち、運営に反映させている。施設長も提案等は職員の思いの熱いうちにとスピード感を持って対処することを大切にしている。意見や要望が運営に反映されやすい体制が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績に応じ給与水準を上げたり、労働条件に合わせることで働きやすい環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を積極的に設けたり、働きながら学ぶ機会を増やしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会、勉強会などに積極的に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時に介護計画を立てる上で、利用者本人の不安や希望などに耳を傾け、取り入れるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今後のライフスタイル、希望等細部に渡って聞きとり、入所後の生活に活かすよう心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の情報を集約し、計画するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中での作業を共に行うことで職員が利用者に教えてもらったり、助けてもらったりする場をもうけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に日常の様子を具体的に伝え、利用者本人を支えるための話し合いを行っている。家族の考え、要望なども聞きやすい場を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会場所や時間を設けず、知人・友人が自由に面会できるよう配慮している	家族や知人の訪問が多く、近所の方と誘い合わせて面会に訪れている。面会時間を制限せず、お茶の世話や、話しやすい場所を提供して馴染みの関係が継続するよう心掛けている。買い物をする店や美容院、ボランティアの方々など馴染みの場所や人との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、あいだに職員が入ることによってより良い関わり合いができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者に対しては、原則終身契約としている。退会後も必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向をきちんと受け止め、本人本位に検討するよう努めている	日常生活の聞き取りの中から、利用者の思いや希望を把握している。その都度ケース会議を開き、早期対応している。家族から聞いた利用者が元気だった頃の話も参考にして、利用者本位のサービスになるよう心がけている。困難な場合は、状態観察をして意向をつかむように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や経験を本人や家族から聞き、暮らしやすい環境作りにいかしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態やライフスタイルを記録し、職員間で共有することで現況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族会や会議、本人との話し合いでそれぞれの意見や希望を聞き、利用者一人ひとりの特徴や要望をふまえた具体的な介護計画を作成している	ケアプラン作成に関しては、見落としがないように随時、専門職同士で「小さなカンファレンス」を行なっている。家族と面会時や電話で変更点等を相談しており、アンケートでも高い評価を得ている。目標達成状況はモニタリング実施記録表で詳しく確認を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、利用者個々の日常の様子が具体的に記録され、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変わったときには話し合いを行い対応方法を変えるなど、形にはまったやり方ではなく、出来るだけ柔軟な対応を心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて各機関やボランティア等と協力しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の要望、希望を聞き、協力医療機関との連絡を密にしている	通院及び往診等の受診時には、どの科でも看護師が「看護日誌」と「個人ファイル」を持参し、介護職と共に同行・同席している。受診内容に問題点があれば、家族に電話をしている。アンケートにも連絡の有り難さや看護師の存在の大きさに対する評価が記されていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を配置し、24時間医療体制を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時には毎日職員が病室に顔を出し、医師や家族と話し合うことで、情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療を実施し、急変等の変化に備えている	入所時にターミナルケアの方針を説明し、看取りを実施している。家族の宿泊も可能である。希望によっては入院への移行等も柔軟に対応している。重度化に伴い、カンファレンスを密にして、医療連携を深めている。夜間も経験豊富な職員を配置して体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や急変時の対応について話し合い、定期的に訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応について、定期的に訓練を行うと共に、地域との協力体制を築いている	エレベーター停止を想定したタンカー2台による避難訓練を行なった。3月には夜間時の対策として防災訓練を行なう他、年内に消防署指導下で日中訓練も行なう予定である。近隣店舗や町内会との協力体制が構築されている。館内にスプリンクラーも設置している。	タンカーを用いての避難訓練では、多少の課題点を見い出している。訓練を重ね、課題点が克服されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で職員に教育している	月に一度の全体会議の中で「個人情報保護マニュアル」に基づいて、職員教育をしている。人格尊重については、利用者の生活歴や性格等を観察して、その人に合った言葉かけや対応を職員が自主的に行なっている。家族が上手な対応法を褒めている記述がアンケートにあった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者本人の希望を聞いたり、自己決定ができるような場面を作るように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースにあわせ、ゆったりを楽しく一緒に、を心がけながら見守りし、ケアを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室を利用したり、本人のお気に入りの衣類や小物を身につけることで、その人らしい身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態をみながら、一緒に準備や片付けなどをするようにしている。食べたいおやつメニューを利用者に尋ねて手作りするなど、食事が楽しい時間になるよう務めている	おしぼり配布やお茶つぎ、お盆拭き等を週の担当制にして、利用者も一緒に行なっている。大きな「お手伝い表」の名前欄に色分けしたシールを職員に貼ってもらい、本人の行動数が分かるようになっている。2～3日に1回は、おやつを合同で手作りして入居者間の交流を図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせた調理とその時々々の体調や能力に合わせてメニューを変更するなどして対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに本人の力に応じた口腔ケアを行い、就寝時は入れ歯の消毒を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それに応じたトイレ誘導を行っている。ポータブルトイレを使用し、夜間のトイレ誘導を行っている	フロアにはゆったりしたトイレがあり、職員が「排泄チェック表」で回数やタイミングを把握して誘導している。入所前に常時オムツで寝たきりだった利用者が自立支援の取り組みでリハビリパンツに変わった。今では介助を受けつつも、便座で排泄できるようになった。ケアの経験値の高さが成果につながったと思われる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の排便チェック表を作成し、排便パターンを理解することで、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望やタイミングを理解し、希望にそった入浴になるよう支援している	浴槽の周囲や各シャワーコーナーの随所に手すりを設置して、安全面の強化を行なった。利用者のその日の状態を考慮して、職員2人体制で一日おきの支援をしている。入浴拒否の場合は、声かけや本人の気分が高まるように浴室内の工夫をして、うまく誘導につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活習慣や状況を把握し、寝具や家具、空調に気を配ることで気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容や用法について、職員がわかりやすいようファイリングしており、服薬時の見守りや症状の変化の確認には気を配っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意なことから、楽しみ事を職員が理解し、一緒に行動しながら行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩や買い物へ日常的に出掛けたり、月に一度はマイクロバスを利用し遠出している	利用者の希望に応じて、買物や公園を散歩する支援や屋上のベンチでくつろげる配慮も行なっている。同系列のデイサービス送迎バスを借りて、車いす利用者も自然の中へ遠出できるように毎月予定を立てている。年始には千葉神社へお参りに行き、綺麗な建物を見学する機会も持った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じてお金を所持することを理解し、買い物など自由にできるよう配慮している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人からの電話、手紙は自由に使えるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間を広く取り、温度設定や家具の配置などに気を使っている。季節感のある花やレクリエーションの作品を飾るようにしている	館内は静かな音楽が流れ、温かみのあるライトで落ち着いた感じである。季節の調度品や花が装飾され、気配りも感じられる。家族からも行き届いた清掃に感心する声が多かった。2階はボランティア活動ができる空間があり、屋上も利用者の家族が加わっての催し物が可能である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファやいす、テーブルを置き、自由に使えるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、雑貨など自由に持ち込んでもらい、荷物の制限はしていない	ベッドやローチェスト、エアコン、リネン類が備えつけてあるが、自分の親しんだ物を自由に置くこともできる。職員は家具配置や導線の相談をしたり、毎日の室内清掃を一緒に行なっている。冬は全員に湯たんぽを入れる配慮と濡れタオルを干して、乾燥から守る努力もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体機能や状態を理解し、職員が見守ることで安全かつ自立した生活が送れるようにしている		